

人とペットの避難行動について

飼主のみなさまへ

災害でペットを守ることができるのは飼主だけです。

自分が無事でないとペットは守れません。

次の3点が重要になります。

1. 飼い主が自らの安全を確保することが、災害時にもペットを適切に飼養することにつながります。
2. 健康面やしつけを含めたペットの平常時からの適正な飼養が、最も有効な災害対策になります。
3. 災害時にはペットを落ち着かせるとともに、逸走やケガなどに注意して、ペットとともに避難します。

<防災でのキーワード「自助」「共助」「公助」>

自助：自分とペットの身の安全は自分で守ること

共助：近隣住民や飼い主同士の助け合い、広域の助け合い、他の組織を交えた助け合い

公助：行政機関などによる支援

大規模災害では、行政機関などの公的機関による支援が始まるまでの間、自助や共助により乗り越えなければなりません。

飼い主には、まず自分の安全を確保し、そのうえで、ペットの安全と健康を守り、他の避難者に迷惑をかけることなく、ペットを適正に飼養管理する義務があります。

災害発生時に 飼い主が行うべき行動

1

ペットとの同行避難

同行避難する際の準備例

犬の場合

- リードを付け、首輪が緩んでいないか、鑑札、狂犬病予防注射済票を装着しているかを確認
- 小型犬はリードをつけた上で、キャリーバッグやケージに入れる
- 避難用品を持って指定緊急避難場所へ向かう

猫の場合

- キャリーバッグやケージに入れる
- キャリーバッグなどの扉が開いて猫が逸走しないようにガムテープなどで固定するとよい
- 避難用品を持って指定緊急避難場所へ向かう

2

避難中のペットの 飼養環境の確保

避難所での飼養

- 各避難所が定めたルールに従い、飼い主が責任を持って世話をする
- 飼養環境の維持管理には、飼い主同士が助け合い、協力することが必要

自宅で飼養する

- 支援物資や情報は、必要に応じ指定避難所などに取りに行く
(自宅の安全確認を確実に行う)

車の中で飼養する

- 支援物資や情報は、必要に応じて指定避難所などに取りに行く
- ペットだけを車中に残すときは、車内の温度に常に注意し、十分な飲み水を用意しておく
- 長時間、車を離れる場合には、ペットを安全な飼養場所に移動させる
(安全の確認とエコノミークラス症候群には十分注意)

知人や施設などに預ける

- 被害がおよぶ可能性が低い遠方の知人に預けることも検討しておく
- 施設に預ける場合は、条件や期間、費用などを確認し、後でトラブルが生じないよう、覚書などを取り交わすようにする

メモ

・同行避難とは、避難行動を示す言葉であり、避難所でペットを人と同室で飼養管理することを意味するものではありません。
 ・避難所には、指定緊急避難場所や指定避難所などがあります。

05
避難所へ

06
避難所での受入

07
避難中のペットの飼養環境の確保

